

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年4月20日（月）

2 確認箇所

多核種移送設備建屋（図1）

3 確認項目

多核種除去設備等処理水の試料採取状況

4 確認結果の概要

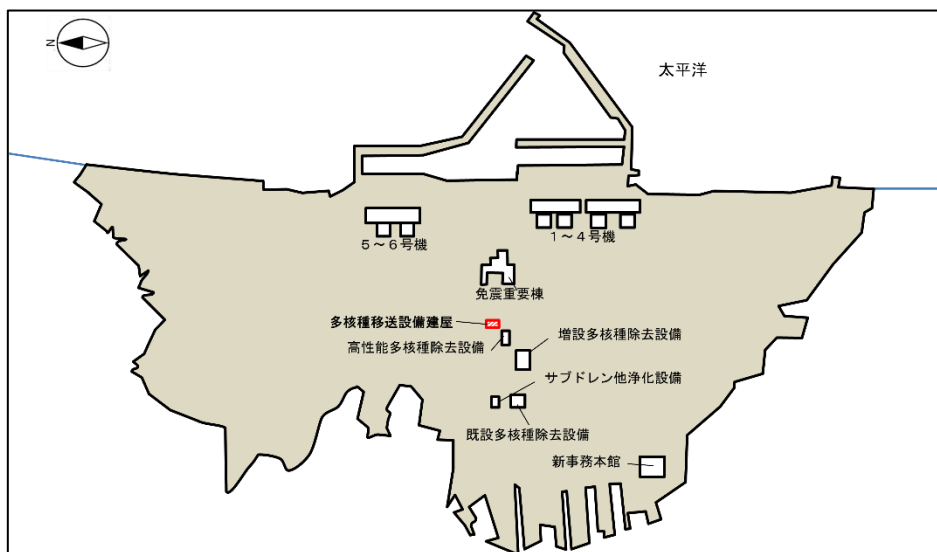
多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の海洋放出にあたり、東京電力では、希釈前のALPS処理水の放射性核種濃度や水質を測定し、トリチウム以外の放射性核種濃度が法令上の基準以下となっていることを確認している。また、トリチウムについても、ALPS処理水を海水で希釈した放流水について、法令上の基準(60,000 Bq/L)より低い運用目標基準(1,500 Bq/L)を設定し、その基準以下となっていることを確認し海洋放出を行っている。

今回、ALPS処理水の第20回目（令和8年度第2回目）^{*}の放出に向けて、放射性核種濃度等の測定に係る希釈前のALPS処理水の試料採取（サンプリング）が行われることから、その状況や手順を確認した。（前回確認：令和7年11月20日）

※第20回目の放出は、H1東エリアC群のタンクに貯留しているALPS処理水が対象。東京電力では、放出に向けてALPS処理水を測定・確認用タンク（B群）に移送完了後、4月13日から一週間の循環攪拌運転を経て、放出前の事前サンプリングを実施している。

- ・サンプリングは、サンプルタンク循環ポンプが設置されている多核種移送設備建屋（以下「建屋」という。）のサンプリングラインA系から行われた。（写真1）
- ・サンプリングは、事前に定められた手順書に沿って進められ、サンプリング中に水の溢れや飛散は認められず、安全かつ適切に実施された。（写真2）
- ・建屋入口付近に設置されたクリーンエリアでは、採取された試料（ポリ瓶）が仮置きされていた。エリア内では、ラベリングや封印処置が適切に施されていることを確認した。（写真3）
- ・当日、東京電力社員5名が協力企業作業員によるサンプリング作業に立会い、サンプリングラックの近傍において、作業手順に誤りがないか確認していた。また、サンプリングした試料をクリーンエリアに置く際に、水の

滴下がないか、採水容器に水滴が付着していないか等の確認を行っていた。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
サンプルラックのバルブ操作の
状況



(写真2)
試料採水時の状況



(写真 3-1)
クリーンエリアの状況



(写真 3-2)
ラベリングの状況



(写真 3-3)
封印処置の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。